

News

佐藤勝彦客員上級科学研究员、2014年度文化功労者に選ばれる

本機構発足以来2010年度末まで主任研究员を務められ、現在客員上級科学研究员の佐藤勝彦自然科学研究機構長が「宇宙物理学・宇宙論・学術振興」の功績で2014年度文化功労者の顕彰を受けました。



佐藤勝彦さん

立川裕二科学研究员、第29回西宮湯川記念賞を受賞

東京大学理学部物理学学科准教授でKavli IPMU科学研究员の立川裕二さんが「次元の異なる場の量子論の間に成り立つ対応関係の発見」により第29回西宮湯川記念賞を受賞しました。



立川裕二さん

中家 剛客員上級科学研究员、2014年度仁科記念賞を受賞

京都大学理学研究科教授で本機構客員上級科学研究员の中家 剛さんが、高エネルギー加速器研究機構の小林隆教授と共にT2K長基線ニュートリノ実験における「ミューニュートリノビームからの電子ニュートリノ出現現象の発見」により、2014年度仁科記念賞を受賞しました。



中家 剛さん

戸田幸伸准教授、第11回（平成26年度）日本学術振興会賞を受賞

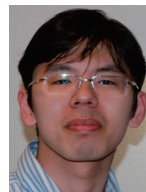
本機構准教授の戸田幸伸さんは、「接続層の導来圏と数え上げ不変量」の研究に関する業績により、第11回（平成26年度）日本学術振興会賞を受賞しました。



戸田幸伸さん

高柳 匡客員上級科学研究员、2015 New Horizons in Physics Prize受賞

京都大学基礎物理学研究所教授でKavli IPMUの客員上級科学研究员を兼ねる高柳匡さんが、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校准教授の笠 真生（りゅう しんせい）さんと共に「場の量子論と量子重力におけるエントロピーに関する基本概念」により2015年のNew Horizons in Physics Prizeを受賞しました。



高柳 匡さん

この賞は2012年にロシア人の物理学者でソーシャル・メディア投資家、ユリ・ミルナーがBreakthrough Prize in Fundamental Physicsを創設した際、若手研究者向けに設けられたものです。

ロバート・クインビー客員科学研究员、2015 Breakthrough Prize in Fundamental Physics 受賞

2015年のBreakthrough Prize in Fundamental Physicsは宇宙の加速膨張を発見したSaul PerlmutterとSupernova Cosmology Project Team、及びBrian Schmidt、Adam RiessとHigh-Z Supernova Teamに与えられましたが、2014年8月末まで当機構の博士研究员を務め、現在サンディエゴ州立大学准教授・同大学ラグナ山天文台長、本機構客員科学研究员のロバート・クインビーさんはSupernova Cosmology Project Team



ロバート・クインビーさん

のメンバーであったため、受賞者の一員となりました。

ロジャー・ウェンデル准科学研究员、第9回日本物理学会若手奨励賞受賞

東京大学宇宙線研究所助教で本機構の准科学研究员を務めるロジャー・ウェンデルさんが第9回（2015年）日本物理学会若手奨励賞を受賞しました。スーパーカミオカンデ実験から報告された“Evidence for the Appearance of Atmospheric Tau Neutrinos in Super-Kamiokande”, [Physical Review Letters **110**, (2013) 181802として出版] に対する貢献が評価されたものです。



ロジャー・ウェンデルさん

フランス・コルドバ米国国立科学財団（NSF）長官、Kavli IPMUを訪問

2014年10月3日にNSF（米国国立科学財団）長官のフランス・コルドバさんがグラハム・ハリソンNSF国際統括プログラム・マネージャー、ケリーナ・クレイグ-ヘンダーソンNSF東京事務所長と共にIPMUを訪問され、村山機構長からこれまでにNSFの助成金を受けた研究者を受入れた実績を含め、機構の研究活動についての説明を聞き、基礎科学の支援に対する率直な意見を交わしました。

その後、藤原交流広場における研究者のティータイムに参加され、各国から集まった若い研究者、特にご自身が宇宙天文観測分野の研究者として科学的貢献をされたことから女性天文学者との交流を楽しまれた様子でした。



ティータイムで歓談する（左から）NSFのフランス・コルドバ長官、Kavli IPMU博士研究员のクレア・ラックナー、同エドモンド・チャン、村山機構長

村山機構長が国連本部でスピーチ

今年1954年に発足したCERN（欧州合同原子核研究機関）が60周年を迎えましたが、一連の記念行事の最後を締めくくる「CERN：平和と発展のための科学の60年一人と文化を結びつける上での科学と政府間科学機関の役割」が2014年10月20日にニューヨークの国連本部経済社会理事会会議場で開催され、村山機構長が「平和と発展のための科学：今日と明日」と題して基調講演を行いました。プログラムは潘 基文国連事務総長、CERNのロルフ・ホイヤー所長らのスピーチ、ノーベル平和賞受賞者のコフィ・アナン前国連事務総長、ノーベル物理学賞受賞者のカルロ・ルビア元CERN所長、村山機構長らの基調講演などで構成されました。

村山機構長の基調講演の様子とその全文については、本誌の表紙と38-40ページをご覧ください。

柏キャンパス一般公開

2014年10月24日（金）、25日（土）の2日間、東京大学柏キャンパス一般公開「探究心と好奇心～もっと身近に感じる科学～」が開催されました。

Kavli IPMUは研究棟を会場に、初日に羽澄昌史教授の「宇宙の始まりを探る—LiteBIRD 衛星に向けて」、2日目に村山機構長の「チーバ君も一緒！村山先生から宇宙の話を聞こう!!」と題する講演、2日間の企画として、展示による研究紹介、数学パズル、「宇宙の始まりの物語3D」のビデオ上映、研究棟見学ツアー、サイエンス温泉を実施し、いずれも好評でした。2日間の来場者数はキャンパス全体で約8,000人、Kavli IPMUには2,000人以上が訪れました。（サイエンス温泉とは何かは、次の項を参照して下さい。）



セミナー室で行われた研究紹介と数学パズル



講演する羽澄教授



村山機構長の講演には千葉県キャラクター、チーバ君も登場

サイエンスアゴラ2014に「サイエンス温泉」出展

東京のお台場地域で2014年11月7～9日に開催されたサイエンスアゴラ2014で、Kavli IPMUからの参加企画として11月9日に日本科学未来館会場の7階未来館ホールで「サイエンス温泉～サイエンスとアート、実は結構似たもの同士?!～」を行いました。

サイエンスアゴラは子ども向けの理科実験、トップ科学者との対話、市民参加の科学議論など、誰もが参加でき、科学と社会の関係をつくるイベン

トです。ここで、イギリスが発祥とされる“サイエンスカフェ”を日本式に翻案した“サイエンス温泉”では、登壇者の現代美術作家（画の浅井裕介さん）と最先端の若手サイエンティスト（Kavli IPMUの山崎雅人助教）が浴衣をはおって、会場の参加者30人強も特製 Kavli IPMU 温泉タオルを首にかけ、温泉場というゆるい雰囲気醸し出す中で、「対象に迫る方法」という固いテーマを題材に、真摯にトークを行いました。サイエンティストとアーティスト、それぞれの立場から複雑な世界の一端に迫る取り組み方とその類似性を目の当たりにした来場者からは質問が相次ぎ、時間が惜しまれながら幕を閉じました。



サイエンス温泉風景

Kavli IPMU/CRR合同一般講演会「宇宙を捉える—暗黒物質の正体に迫る—」

2014年11月15日、東京大学駒場キャンパスの21 Komaba Center for Educational Excellence (KOMCEE、理想の教育棟) Westレクチャーホールで11回目となるKavli IPMUと宇宙線研究所共催の一般講演会「宇宙を捉える—暗黒物質の正体に迫る—」を開催しました。プログラムは「暗黒物質」を理論家、実験家それぞれが解説するもので、理論家の松本重貴 Kavli IPMU准教授が「暗黒物質の正体について」と題して現在の暗黒物質研究を概観、続いてKavli IPMUの科学研員でもある実験家の山下雅樹宇宙線研究所特任准教授が「地下からさぐる暗黒物質」と題して実際にXMASS実験に携わる立場から講演を行いました。その後、2人の講師によるざっくばらんなミニ座談会「暗黒物質っておもしろい?」、講

師を囲んでのティータイムと盛りだくさんの内容で約200人の来場者は満足気でした。



山下准教授(左)と松本准教授(右)

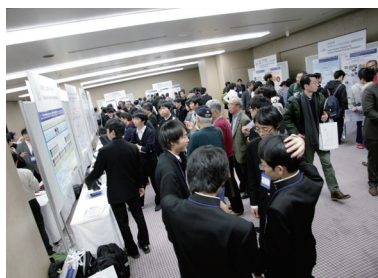
第4回WPI合同シンポジウム「サイエンスがつなぐミのミライ」

2014年12月13日、有楽町朝日ホールにおいて、第4回世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)合同シンポジウム「サイエンスがつなぐミのミライ」が開催されました。このシンポジウムは、次代を担う高校生を対象に最先端の科学とその魅力を伝えるために毎年行われてきており、今回はKavli IPMUが運営を担当しました。参加者は、一般参加を含め約400名でした。

シンポジウムは、濱田純一東京大学総長と常磐 豊文部科学省研究振興局長の挨拶で始まり、WPI全9拠点から若手研究者一人ずつが出演し自分の研究を紹介するビデオの上映に続いてWPI拠点の研究者3名の講演と高校生による研究発表が行われました。講演者の一人はKavli IPMUの村山機構長で、「宇宙に終わりはあるのか」について話しました。また、展示ブース会場で各WPI拠点の研究紹介と高校生による研究発表が行われました。



講演する村山 Kavli IPMU 機構長



賑わう展示ブース会場

サンタクロース一家がどんぐり保育園にやってきました

柏キャンパスに設置されているどんぐり保育園には毎年12月のクリスマス会にKavli IPMUからマーク・ベイギンス教授が扮するサンタクロースがやってきます。今年は教授夫妻と息子のイザク君がサンタクロース一家になって訪れ、園児と楽しい一時を過ごしました。



マーク・ベイギンス教授一家と職員の皆さん

人事異動

昇任

Kavli IPMU助教のトードル・ミラノフさんが2014年12月1日付けでKavli IPMU准教授に昇進されました。



トードル・ミラノフさん

転出

次の方々が転出しました。[括弧内はKavli IPMU在任期間です。]

Marcus Wernerさん [2011年10月1日—2014年12月31日]、Kavli IPMU博士研究員からケンブリッジ大学理論宇宙センター/応用数学・理論物理学科に客員研究員として滞在後、2015

年4月1日より京都大学基礎物理学研究所助教へ。

横崎 統三さん [2012年4月1日—2014年10月31日]、日本学術振興会特別研究員からローマ大学「ラ・サピエンツァ」博士研究員へ。